

## 1. 合宿の目的

今回の合宿のテーマを「プライバシーとロボット技術」とした理由として、プライバシーが分野にまたがる問題であり、将来のロボット技術の社会化において、概念の定義や、実装のあり方が問題となる点を挙げた。今回ご参加いただいた先生方の分野は、哲学、心理学、法学、工学、HRIであり、まずは、プライバシーとの関連から、先生方のこれまでの取り組みを共有しつつ、それぞれの役割を理解することを目的とした議論を行うことを説明した。さらに、次の委員会のゴールの設定を全員で考えることも念頭に置くこととした。

## 2. どのような社会を目指すのか

先端的なロボット技術をプライバシー（特に、個人情報）との関連から考える上で、どのような社会を望むのかに関する知見を共有する必要がある。そのため、以前、本委員会でもご講演くださった大屋雄裕先生の「自由か、然もなくば幸福か？」（筑摩選書）を参考に、将来の社会像に関する議論を紹介した。

大きく分けて3つの可能性が示された。複雑化する規制の下で個人が全てを勘案して行為を選択し、頑張った人間には報酬があるという自力の救済が実現される社会を望むのか、あるいは、個人がどう振る舞っても社会全体の幸福が自動的に実現する社会をアーキテクチャ的に制度として実現できる社会を望むのか、または、監視の徹底を行い、万人が万人を疑い、監視の対象にする耐え難い平等社会を望むのか、など、歴史的な変遷に基づき、将来ありうる社会像に関する議論を概説した。技術の進展が進めば、最後の選択肢である極度の監視社会が実現される可能性は否定できない。一方で、委員会の議論としては、いずれかしか選択できないのではなく、それぞれの折衷案が実現されるのが現実的であるといった意見交換がなされた。またその折衷案の実現のためには、どのような研究開発や技術評価が必要なのかを議論した。